

名古屋SF読書会15 2001年宇宙の旅 2019・08・03

名古屋SF読書会URL <http://www.ne.jp/asahi/science/fiction/dokusyokai/>

【クラーク 人と作品】

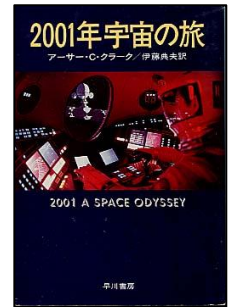
アーサー・C・クラークは1917年12月16日に、英国サマセット州の港町マインヘッドで生まれた(ちなみにディックの誕生日は1928年12月16日!)。13歳でSF雑誌〈アスタウンディング〉やステーブルドン『最後にして最初の人類』に夢中になり、16歳で英国惑星間協会に入会。グラマースクールを卒業した後は大蔵省に入り、教育局の会計監査を担当しながら、惑星間協会やSFファン活動に積極的に参加する。〈アスタウンディング〉1946年4月号に短篇「抜け穴」で商業誌デビュー、翌月号には「太陽系最後の日」が掲載された。

1951年には初の長篇『宇宙への序曲』が米国で(雑誌形式)、『火星の砂』が英国でそれぞれ刊行された。1953年はクラークの当たり年と言うべきで、20歳の頃から執筆していた『銀河帝国の崩壊』(48年に雑誌掲載済)、代表作『幼年期の終り』、短篇集『前哨』が立て続けに刊行された。特に『幼年期の終り』は30万部以上売れるヒット作となり、クラークの名声を確立した。その後も『地球光』『海底牧場』『都市と星』など多くの作品を発表、SF界の大家となり、アシモフ、ハインラインと並んでSF御三家と称されたことは、皆様御存知のとおり。

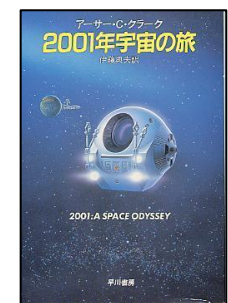
1956年よりスリランカに移住、終生そこに住み続けた。1964年にはキューブリックよりSF映画製作の相談に乗ってほしいと依頼があり、渡米してキューブリックと対面したのが運の尽き。その後4年間に渡って続く激闘のドラマは、マイケル・ベンソン『2001 キューブリック クラーク』に詳しく描かれているので、ぜひ一読を。結局、クラークによる小説版『2001年宇宙の旅』が刊行されたのは、映画公開4か月後の1968年7月であった。

その後も『宇宙のランデヴー』『地球帝国』『楽園の泉』など数々の傑作を発表。89年からはジェントリー・リー、ベンフォード、マクダウエル、バクスターなど他の作家との共作も多かった。2008年3月19日、コロomboの病院で逝去、享年90歳であった。

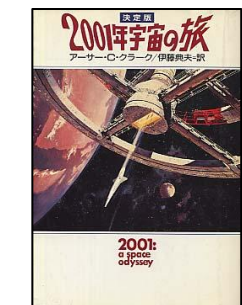
なお、クラークの短篇をまとめて読みたい場合は、中村融編による〈ザ・ベスト・オブ・アーサー・C・クラーク〉全三巻『太陽系最後の日』『90億の神の御名』『メテューサとの出会い』がハヤカワ文庫SFより出ており、お勧めである。



ハヤカワ文庫SF
1977年5月
表紙：映画より



1984年7月
表紙：鶴田一郎



1993年2月
表紙：映画より

スタッフ&ゲスト紹介

名古屋SF読書会は初心者からマニアまでをモットーにやさしく丁寧、かつ面白い読書会を目指しています。今後もよろしくお願いたします。

- 1) 長澤唯史 2) @Sonopapa
- 3) 読書会と名古屋SFシンポジウムの幹事をさせていただきます。でも最近はK-POPとジャニーズにはまっています。

- 1) 舞狂小鬼(洞谷) 2) @okiraku_k
- 3) クラークは中学生の時にフレドリック・ブラウンの次に好きになった作家です。『2001年宇宙の旅』は大好きな映画ですが、原作を読むのは久しぶりです。
- 4) フランケンシュタイン、ユービック、竜のグリオールに絵を描いた男

- 1) 渡辺英樹 2) @gonza63
- 3) 最近読んで面白かったSFは「SF基礎力養成講座」と銘打たれた『伊藤典夫訳 SF傑作選 最初の接触』。ラインスターもウィンダムもファーナーも面白い。ということは自分にはSF基礎力がなかったのかも。
- 4) 三体

- 1) 渡辺睦夫
- 3) 海外SFファン。好きな作家はブラッドベリ、ディック、J・ティプトリー・Jr、C・スミスほか多数。洋楽ファン。好きなジャンルはパワー・ポップ、オルタナ・カントリーなど。 4) 三体

- 1) 片桐翔造 2) @gern
- 3) SFマガジンDVDコーナーレビュー担当。最近みた映画で面白かったのは「ハッピー・デス・デイ」。「スクリーム」的なスラッシャーホラーにループ要素を合わせた快作です。
- 4) 新刊をそろそろやりたいです。『雪降る夏空に君と眠る』とか。

- 1) 渡辺啓一 2) @eleking
- 3) 集中力減退と老眼で読書力大幅減退中。現役復帰に向けてリハビリしないと焦る五十代半ば。
- 4) 神林をそろそろ。

中村融／なかむらとおる(翻訳家)
中央大学在学中より海外SFの研究、評論、翻訳など幅広い活動を行う。1987年にジャック・ヴァンスの「五つの月が昇るとき」で翻訳家としてプロデビュー。以降、新作の翻訳紹介、古典の新訳、SF／ファンタジーのアンソロジー編集など、多方面で活躍中。